

中丸まどか（ヴァイオリン）

1981 年生まれ。3 歳よりヴァイオリンを始め、瞬く間にその楽器の虜となる。幼少よりピアニストの姉である中丸ちひろや仲間たちと舞台を共にし、17 世紀から 20 世紀までにわたる幅広いレパートリーを学び楽しむ。在学中の 2005 年にはライブツィヒ室内管弦楽団来日の際にメンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲をソリストとして共演し、絶賛を博す。東京芸術大学器楽科ヴァイオリン専攻を卒業後、2006 年に同大学院古楽科バロックヴァイオリン専攻を修了。同年、文化庁及びベルギー政府の奨学金を受けベルギーに渡る。ブリュッセル王立音楽院にてシギスヴァルト・クイケンに学び、2009 年にディプロマを得てバロックヴァイオリン修士課程を修了する。現在はベルギーを拠点とし、コンサートミストレスとしてコンサートや CD レコーディング、テレビ放送、ラジオの収録など多数のオーケストラに招かれるほか、室内楽やソロでも活躍している。弦楽器の編成でオルガンの精神をブクステフーデからシューマンまで広範なレパートリーを表現するヒルデブラント・コンソートとの共演や、ベルギー発こども向けバッハの音楽劇でのソロヴァイオリン、日本を代表するオイリュトミストはた見え氏と無伴奏ヴァイオリンによるコラボレーションなど、数々のユニークな活動をベルギーのみならずオランダ、フランス、ドイツなどヨーロッパ各地や日本で行っている。また長年培った経験を活かし、フランスのコンセルヴァトワールでヴァイオリンの歴史に関する講義やマスタークラスをするなど、後進との交流と指導も積極的に行っている。

公式ウェブサイト www.madokanakamaru.co